

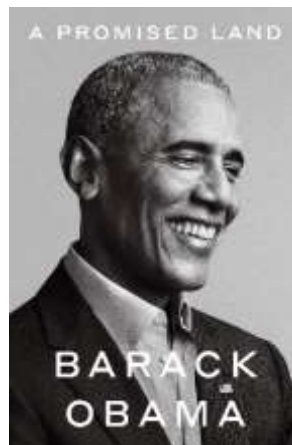
2020年10月8日（木）

バラク・オバマ前大統領の回顧録第1巻『A Promised Land』日本語版が、
集英社から発売決定——原書の書影も公開

全世界 25 言語で同時発売

アメリカ合衆国第44代大統領、バラク・オバマの回顧録が全2巻で刊行されます。

第1巻『A Promised Land』は、2020年11月17日（火）に25の言語で世界同時発売の予定です。『A Promised Land』の日本語版（タイトル未定）は、集英社から2021年1月（※その後2月に決定）に、紙媒体および電子版で発売されることが決まりました。



（『A Promised Land』書影）

なお、アメリカとカナダでは英語版のハードカバーと電子書籍が、ペンギン・ランダムハウス傘下ランダムハウス・パブリッシング・グループの子会社であるクラウンから発売されます。

回顧録の後半にあたる第2巻の刊行日は未定で、後日発表される予定です。オバマ前大統領の回顧録発売記念ツアーについても、詳細は2020年晩秋に発表されることになっています。

『A Promised Land』には、自身のアイデンティティを模索していた若き日々から、自由主義世界のリーダーになるまでの過程が、バラク・オバマ自身の言葉で綴られています。そして、自らの政治的思想が形成された過程や、激変と混乱のさなかにあつたアメリカで大統領在任1期目に起こった出来事について、個人的な経験に照らして描かれています。

本書を通じて読者は、バラク・オバマの感動的で私的な物語を追体験することになります。初めて政治への志を抱いた時期から、草の根活動が歴史の重要な転換点で実を結んだアイオワ州民主党党員集会での初勝利を経て、アフリカ系アメリカ人として初めてアメリカ合衆国大統領（第44代）に選出された2008年11月4日夜の勝利演説に至るまで、読者を惹きつけてやみません。

バラク・オバマは、大統領在任時を振り返りながら、大統領がもつ権力の圧倒的な大きさと限界について思慮に富んだ独自の考察を展開するとともに、アメリカの党派的政治や国際外交のダイナミクスについても自説を披露しています。オバマは私たち読者をホワイトハウスの大統領執務室（オーバルオフィス）や危機管理室（シチュエーションルーム）、さらにはモスクワ、カイロ、北京、その他さまざまな場所へと連れていってくれます。読者はオバマといっしょに、閣僚人事について検討し、国際金融危機と格闘し、ウラジーミル・プーチンの人となりを見定め、不可能と思われた医療保険制度改革の法案通過を実現します。そして、アメリカのアフガニスタン戦略について軍の将官たちと衝突し、金融規制改革に取り組み、メキシコ湾の石油掘削施設〈ディープウォーター・ホライズン〉の爆発事故に対処し、オサマ・ビン・ラディン殺害に至った〈ネプチューンズ・スピア（海神の槍）作戦〉の実行を許可するのです。

『A Promised Land』は、一人のコミュニティ・オーガナイザーが歴史の難題と向き合い、その信念が世界の舞台で試されていくという、私的で内省的な物語です。バラク・オバマは、アメリカで黒人として公職に就き、「希望と変化」のメッセージに支えられた同時代の人々からの期待を担い、そして道徳的な意思決定を行い、それらすべてをバランスをとって行うことがいかに難しいかについて、包み隠さず語っています。また、国内外でオバマを批判してきた人たちについても率直に語ります。ホワイトハウスでの暮らしが妻や娘たちにどのような影響を与えたのかもオープンに書いています。自信を失い、落胆した経験をさらけ出すことも厭いません。それでもオバマは、アメリカ合衆国で現在も続く、真の民主主義を確立しようとする壮大な実験において進歩しつづけることは可能だ、という信念を絶対に曲げようとしません。

本書について、バラク・オバマ前大統領は次のようにコメントを寄せています。「第1巻を書き終えて、何ものにも代えがたい格別な気分を味わっています。私は本書を誇りに思っています。ここ数年、大統領在任中の出来事を回顧することに多くの時間をさきました。『A Promised Land』では、大統領選での活動や大統領として過ごした日々のこと、在任中の出来事やともに活動した人々のこと、正しく実行できたことと間違った行動についての私なりの意見、私を支えてくれたチームと私の前に立ちはだかった政治的・経済的・文化的勢力の問題について、できるだけ誠実に説明することを試みました。ここ数年のあいだに妻のミシェルと私が経験した、ときに激しい浮き沈みを伴う私的な旅の道程を、読者のみなさんにもたどっていただきたいと思っています。そして最後に、アメリカ合衆国がこれほどの激変に直面している現在、今後いかにしてこの国を分断から回復させ、すべての人にとって機能する民主主義を取り戻すかという問題について、一人の大統領に頼るのではなく、国民一人一人が参加して解決する必要があるという私なりの考えを提示しています。私としては、本書が読者にとって楽しくも有益な読書体験となるだけでなく、何よりも合衆国じゅうの、そして世界じゅうの若者がバトンを受け継ぎ、声を上げ、よりよい世界づくりに参加するためのきっかけとなることを願っています」

本書の全世界における権利を取得したペンギン・ランダムハウスのCEO、マルクス・ドールのコメント——「オバマ前大統領は、その言葉と行動を通じて世界に、そして歴史の流れに不滅の足跡を残しました。そして、希望と前進の指針となり、多くの人々に勇気を与えました。彼はまた、きわめて高い才能を有し、深い教養に裏打ちされた書き手でもあります。世界じゅうの読者に向けて本書『A Promised Land』を出版できることは、ペンギン・ランダムハウスにとってこのうえない栄誉です。本書を手にとった読者は、あの時代を鮮やかに脳裏によみがえらせるとともに、現在のように世界が危機的状況に陥っている時代においても民主主義の力こそが重要だということに、あらためて思い至るでしょう」

『A Promised Land』の英語版は、アメリカ合衆国とカナダではペンギン・ランダムハウスのクラウン、イギリスと英連邦地域ではペンギン・ランダムハウス UK にあるペンギン・ゼネラル・ブックスの子会社であるバイキングから、それぞれ発売されます。そのほかにも本書は24の言語で翻訳・刊行されます。スペイン語版は Debate/Penguin Random House Grupo Editorial、ドイツ語版は Penguin Verlag/Penguin Random House Verlagsgruppe、ブラジル・ポルトガル語版は Companhia das Letras、ポルトガル・ポルトガル語版は Objectiva/Penguin Random House Grupo Editorial、フランス語版は Editions Fayard、アルバニア語版は Dubaj Publishing、アラビア語版は Hachette Antoine/Naufal、ブルガリア語版は SoftPress、繁体字中国語版は Business Weekly Group、チェコ語版は Argo、デンマーク語版は Lindhardt og Ringhof、オランダ語版は Hollands Diep、フィンランド語版は Otava Publishing Company、ギリシャ語版は Athens Bookstore Publications、現代ヘブライ語版は Yedioth Books、ハンガリー語版は HVG Publishing Co.、イタリア語版は Garzanti、ハンダ版は Woongjin Think Big Co., Ltd.、リトアニア語版は Alma Littera、ノルウェー語版は Cappelen Damm、ポーランド語版は Agora Publishing House、ルーマニア語版は Editura Litera、スウェーデン語版は Albert Bonniers Förlag、ベトナム語版は First News-Tri Viet Publishing Co., Ltd.から、それぞれ発売されます。

バラク・オバマは、2008年11月にアメリカ合衆国第44代大統領に選出され、2期にわたって大統領を務めました。これまでに『Dreams from My Father』（邦題『マイ・ドリーム——バラク・オバマ自伝』ダイヤモンド社刊）と『The Audacity of Hope』（邦題『合衆国再生——大いなる希望を抱いて』ダイヤモンド社刊）という2冊の本を執筆し、いずれもニューヨーク・タイムズ紙のベストセラー・リストに掲載されました。2009年にはノーベル平和賞を受賞。現在は、ワシントン DC で妻のミシェルと暮らしています。彼らにはマリアとサーシャという二人の娘がいます。

【この件に関するお問い合わせ先】

株式会社集英社 〒101-8050 東京都千代田区一ツ橋 2-5-10 <http://www.shueisha.co.jp>
学芸編集部 八鍬（やくわ）しのぶ TEL : 03-3230-6146 yakuwa@shueisha.co.jp